



道徳の時間の充実をめざして

I 道徳の時間とは ~本質を踏まえましょう!~

子どもたちの心を豊かに育むために、道徳の時間を充実させましょう。道徳の時間に学習する内容は、子どもたちの未来の道標であり、これから生きる心の元気エネルギーです。

学習指導要領解説、心のノートから内容を重点化しましょう!

- 「道徳の時間らしさ」を大切にして、授業を組み立てます。



教師が教え込もうとするのではなく、教師も共に考えようという姿勢が大切です。

- 道徳の時間に学習する内容は、分かっていることから始まります。

だからこそ、深く・広く考える時間としたいものです。1授業が子どもにとって大切な学習です。

- 道徳の時間は、道徳的実践力を高める時間です。実践は、子どもの生活の中にあります。

よりよい生き方を求めようとする意欲、実践への一步を生み出す力を高めましょう。

- 価値の自覚と自己の生き方・人間の生き方についての考えを深めます。

価値のよさを実感することは、よりよく生きることの難しさや大切さを見つめ直す機会となります。

II 指導方法の工夫 ~クリエイティブ&チャレンジ!~

ワークシート・役割演技・動作化・対話活動・心情カードなど、よく取り入れられています。まだまだ工夫ができます。わらいに即して指導方法を工夫することで、道徳の時間の学びが充実します。



吹き出しを活用したワークシート



先生と一緒に役割演技



グループによる対話活動



心のメーターを使って発表

ウェビング図を使って考える



心情をイラストで表してみる



ICTを活用してより分かりやすく



終末に手紙を読む



Ⅲ 板書・発問の工夫 ～見えないものが見えてくる！～



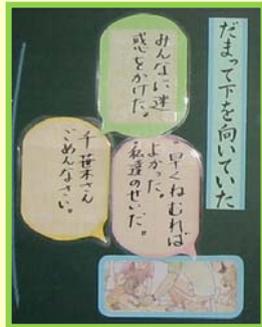
迷っている気持ちを左右に明示！



黒板の中にストーリー展開を劇場化！



「行為を支えた気持ち」と「行為のよさの実感」を明確に板書！



自作「吹き出しホワイトボード」の活用！



弱い気持ちが膨らんでいく様子を可視化！

- ☑ 板書の構造化とは、「順序と関係」が分かるように板書することです。
- ☑ 板書を通して、学習の道筋が分かるようにすることが大切です。
- ☑ 見えない心の動きを、板書を通して見えるようにしていきましょう。

● 発問は、「ねらいにせまるために教師が子どもに働きかける問い」です。 ●

- ① 「どんな気持ち？」 → 心情を問う
- ② 「どんなことを考えた？」 → 思考を問う
- ③ 「どんなことに気づいた？」 → 発見を問う
- ④ 「どうして？」 「なぜ？」 「どんな気持ちから？」 → 根拠を問う
- ⑤ 「どうしたい？ どうすればよかった？」 → 行為（意欲）を問う
- ⑥ 「どうなる？」 → 結果を問う
- ⑦ 「どんな気持ちになった？」 → 変容を問う

★ ねらいにせまるために、子どもたちがどんな反応をするか想定しながら、発問内容を検討することが大切です。



Ⅳ 道徳実態調査（道徳アンケート）を大切に！

道徳の時間は、「教科」ではないので教科書がありません。そこで、授業で扱う学習内容は、**①内容項目**と**②子どもの実態**と**③資料の特性**を踏まえて設定することになります。

週1回の授業を充実させるためには、実態調査等を通して、子どもたちの道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方や価値に関わる**重要**経験等を把握することが大切です。

重要

みんなでつくろう！ 始良市道徳の時間

平成25年度、みなさんからの実践を募集し、「道徳の時間実践事例集」を作成します。多くの実践をお寄せください。
【詳細は学校教育課へ】



○ 本リーフレットは、始良市モラリティ・インブループメント推進事業の一つとして、先生方の授業づくりのヒントになればと思います。先生方の実践が、子どもたちの道徳性を育みます。今後も、道徳の時間がますます充実するよう先生方と実践を共有できればと思っています。
平成25年2月 始良市道徳時間指導法開発委員会